

## 校長講話 29.9.1

「正常な摩擦のある学級」

夏休み中のいろいろな社会の出来事の中から、アメリカ合衆国で起こった「白人至上主義」をかかげる集団と「人種差別反対」をかかげる集団とのぶつかり合いについて取り上げました。新聞では「社会の分断」が起こっていると書かれています。

「分断」は、歴史を振り返ると、社会情勢が不安定なときに、社会の不安や自分の不安を解消するために、より弱い立場をつくって分け隔てることで起こっている場合が多いと感じています。それを統治のために政治的に利用した歴史さえあります。

9月1日にこの話を取り上げたのは、今日から「集団生活」が始まるからです。学校生活の基盤である学級で「分断」は起こっていないか問いかけました。

自分の学級は「みんなが安心して過ごせる学級になっていますか?」「不安になったとき相談できる学級になっていますか?」「不安に思っている人はひとりもいませんか?」と。

毎日、なにもしないでみんながにこにこ笑って生活できていることって、本当にあるのでしょうか。

「言える」「受け止める」「一緒に考える」「理解する」時には「がまんする」ことを乗り越えることで、自分の居場所がある集団ができるのだと思っています。

「正常な摩擦のある学級」は、「なんのもめ事もない学級」よりも、みんなで行事を乗り越える毎に信頼や安心が増えていくよい学級であることを信じて、2学期を通してみんなで成長していきましょう。